

肺移植希望者(レシピエント) 選択基準の改正について

ドナーよりも体格の小さなレシピエントへのあっせんについて (大きさ適合外の肺のあっせん)

(1)現状

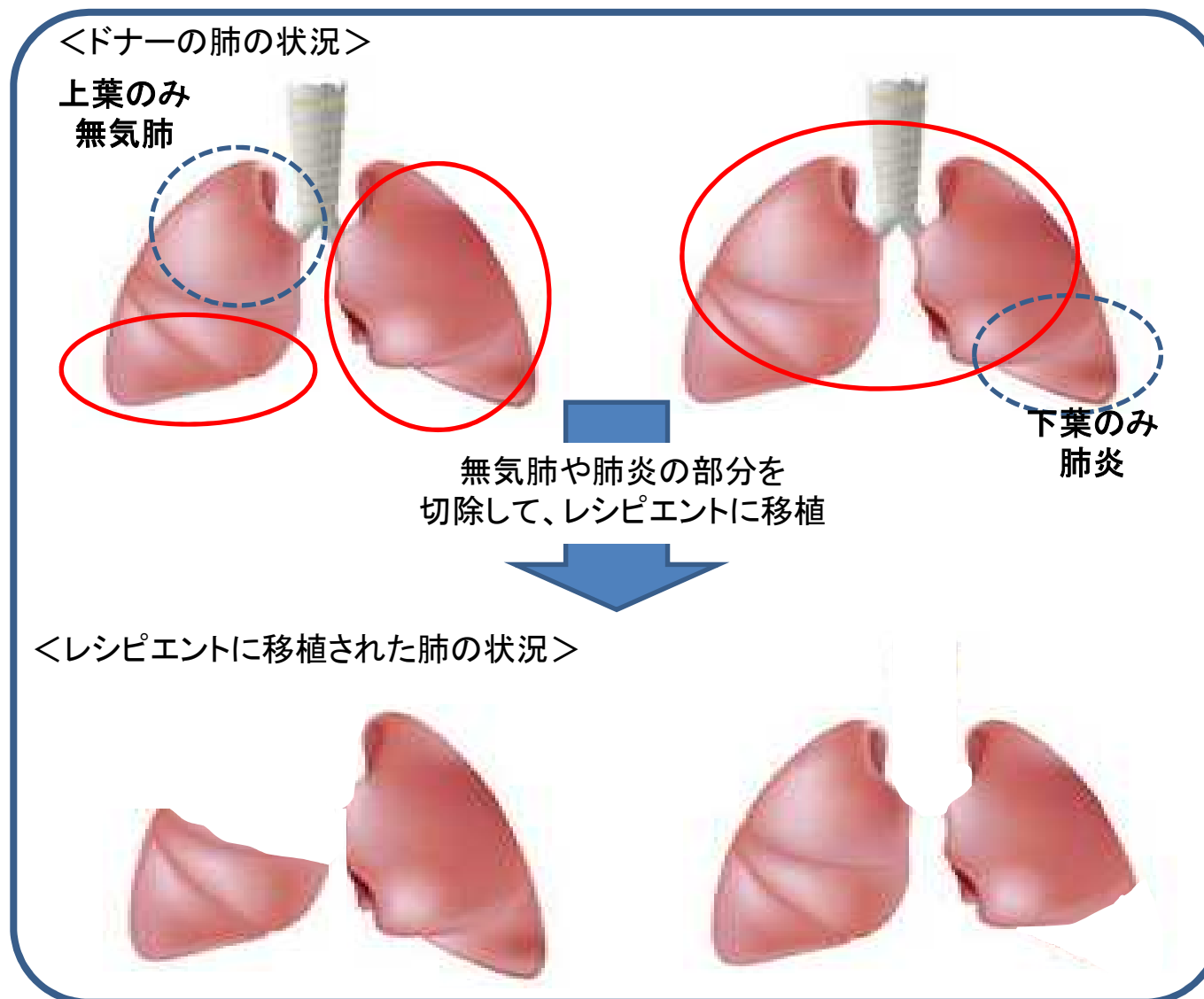
- 現行のレシピエント選択基準の適合条件では、血液型等の要件のほか、体格がドナーに一致していることを要件としている。
- 近年、生体肺移植の進展とともに、ドナーよりも体格が小さな者であっても、安全に移植できる場合があると指摘されている。
- 一方、これまでに脳死下で肺の提供が承諾された139例のうち、68例については、肺炎や無気肺、年齢等のドナーの医学的理由により移植に至っていない。また、レシピエント候補者の医学的理由により、移植に至らない場合も想定される。
- こうした肺についても、病的な部分を取り除き、健常と判断される肺の一部を移植する方法が可能となる場合がある。

(2)基準の改正における基本的な考え方

- 安全性と公平性を確保しながら、現在移植に至っていないドナー肺を最大限生かす方策を検討する。
- 具体的には、ドナーよりも体格の小さな者へのあっせんを可能とするとともに、現在の医学的知見に照らし、通常の移植と同等の安全性を確保できる場合には、肺に異常所見のある肺を一部切除して移植(部分肺移植)することも念頭に置く。

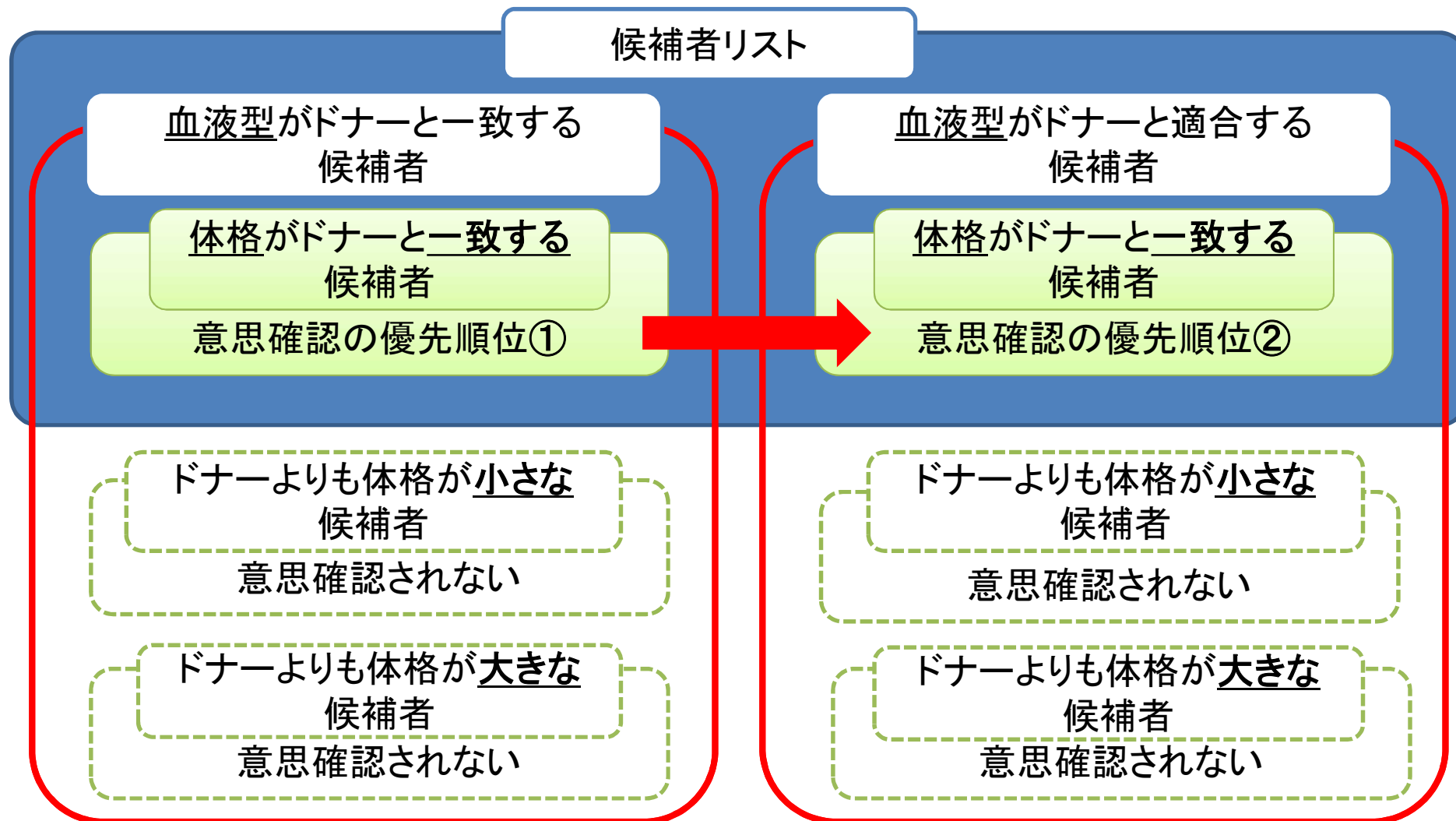
肺の一部の移植が可能な場合について

ドナーに肺炎、無気肺など医学的理由があり、移植に至っていないドナー肺についても、病的な部分を切除する方法で、移植が可能となる場合がある。



現行のレシピエント選択基準により候補者を選択する場合の流れ(現状)

現行のレシピエント選択基準では、血液型や体格等の適合基準に合致している候補者(①、②)の中で受諾者がいなかった場合は、あっせん中止となり、移植に至らない。



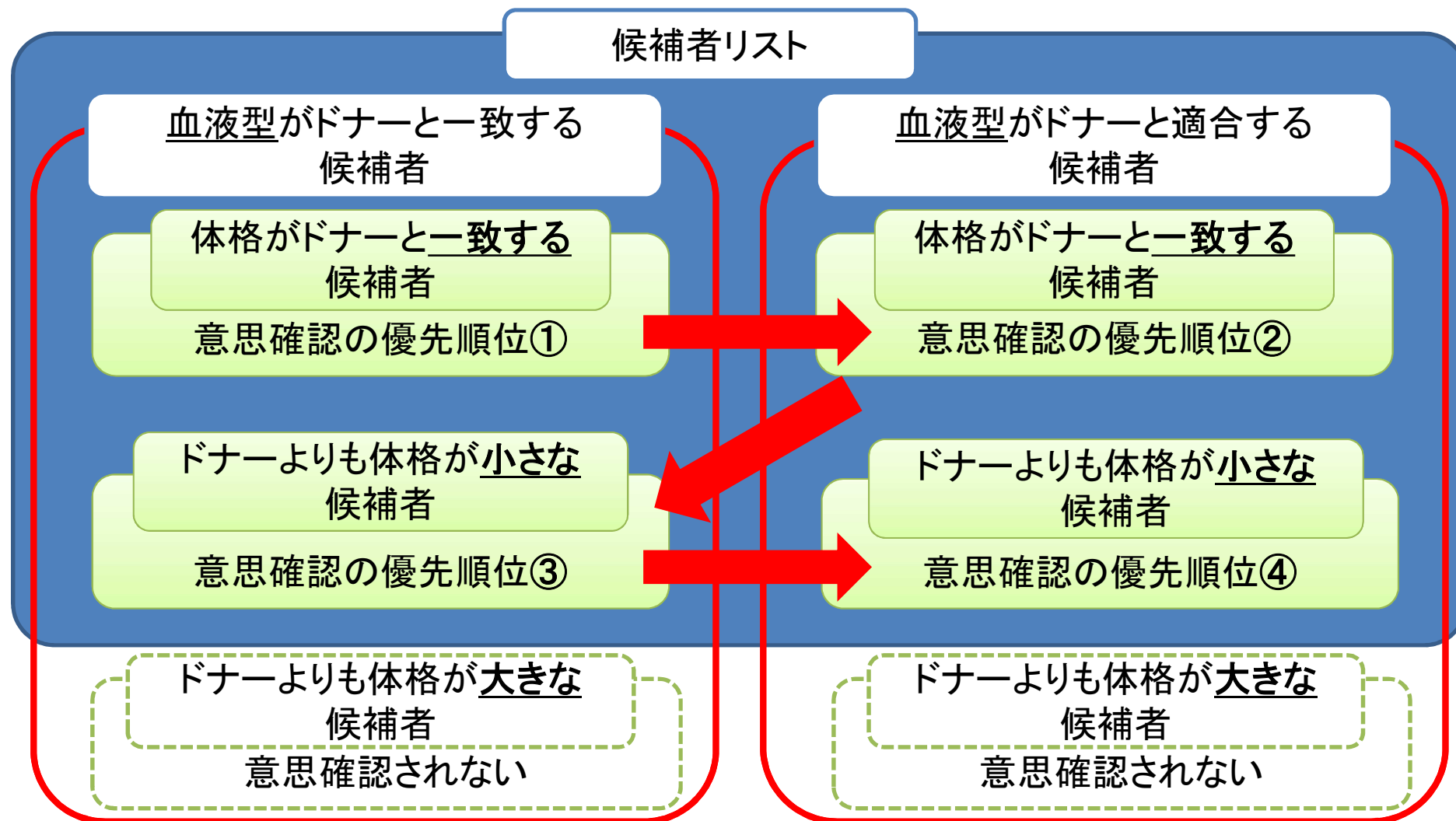
現行のレシピエント選択基準による優先順位のイメージ

ドナーよりも体格の小さな候補者等についても、移植可能な場合があるが、意思確認が行われていないため、移植に至らないドナー肺が存在する。

優先順位	体格の比	血液型	待機期間
① 1	D=R	一致	550
2	D=R	一致	268
3	D=R	一致	107
② 4	D=R	適合	322
5	D=R	適合	81
6	D=R	適合	54
7	D>R	一致	550
8	D>R	一致	268
9	D>R	一致	107
10	D>R	適合	322
11	D>R	適合	81
12	D>R	適合	54

ドナーよりも体格が小さなレシピエントへのあっせんをする場合の流れ(改正後)

体格がドナーよりも小さいが、肺移植可能な候補者(③、④)も選択可能とする。



ドナーよりも体格が小さな候補者でも意思確認が可能となり、移植に至る可能性が高まる。7

ドナーよりも体格が小さなレシピエントへのあっせんを行う場合の 優先順位のイメージ(改正後)

体格が一致する者だけではなく、ドナーよりも体格が小さな者で、血液型が一致(③)または適合(④)で待機期間の長い者も候補者とする。

	優先順位	体格の比	血液型	待機期間
①	1	D=R	一致	550
	2	D=R	一致	268
	3	D=R	一致	107
②	4	D=R	適合	322
	5	D=R	適合	81
	6	D=R	適合	54
③	7	D>R	一致	550
	8	D>R	一致	268
	9	D>R	一致	107
④	10	D>R	適合	322
	11	D>R	適合	81
	12	D>R	適合	54

※体格の比 D:ドナー R:レシピエント候補者